

ビデオ上映：七尾湾に定住するハンドウイルカ

提供：大田希生（水中カメラマン） 解説：台蔵正一（あすなろ目高文庫）

A Video Presentation: Underwater image of Bottlenose dolphins in Notojima Is., Nanao bay, Ishikawa prefecture.

Mareo Ohta(Underwater cameraman), and Masakazu Daizo(Asunaro Medaka Library)

石川県七尾湾に位置する能登島付近の海には2001年秋頃よりハンドウイルカ3頭が定住し（高橋，2003），とある入り江に来遊してくることが知られている．そこで，富山県内のセト研メンバー等(上記の他に南部久男等)で観察を行うことになり，定住イルカの動向に詳しい民宿（漁業従事者）の船をチャーターし，水中カメラマンである大田が水中撮影を試みた．今回紹介する映像は，2003年7月26日と8月11日に撮影した分である．

【水中での観察】

7月26日午前中のシュノーケリングとスキューバダイビングでの観察．

水中はやや濁り，最深部で約10mであった．3頭のイルカが観察され，2頭は同じ大きさで，残りの1頭はそれよりもやや小型であった．吻の先は白かった．イルカは潜行と浮上を繰り返した．大型と小型の2頭が一緒に泳ぎ，他の大型の1頭は2頭の近くを泳ぎ，時々2頭に近づいてくるのが観察された．シュノーケリングで観察していた時には，大田に興味をしめさなかったが，スキューバダイビングでの観察時には，最も近い距離で約1mまで近づいてきた．大型の1頭の左胸ビレ胴側の後縁に，1カ所の小さな切れ込みが確認できた．

【陸上からの観察】

8月11日午前6～7時頃海岸からの観察．

6時には既に3頭のイルカが戯れていた．時々ジャンプしているのが観察された．

【まとめ】

日本近海に生息するハンドウイルカ類には，体長3mを越す大型ハンドウイルカ *Tursiops truncatus* と体長約2.5mの小型ハンドウイルカ（ミナミハンドウイルカ）が生息する．能登島の定住ハンドウイルカはミナミハンドウイルカの可能性がある．また，親子の可能性が示唆されており（高橋，2003），今後も定住するかどうか継続的な観察が必要であると思われる．なお，この定住イルカは2003年にNHK総合の「昼時日本列島」で紹介された．